

平成30年度第2回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時・場所

平成30年9月12日（水） 13：30～15：30

於：岐阜県総合教育センター 1棟3階第3研修室

2 概要

第3次教育ビジョンについて、意見を聴収した。

3 委員から出された主な意見

(1) 特別支援学校高等部における職業教育の充実について

- ・高等特別支援学校の開校に伴い、特別支援学校高等部で行ってきた作業学習の内容の見直しの必要性を感じている。知的障がいの程度が中重度の生徒の作業学習を研究開発できるとよい。
- ・作業到達度の認定の仕組みづくりは、非常に大切であり、企業就労の定着につながるような指標づくりを進めてもらいたい。

(2) 医療的ケアの必要な児童生徒への支援の拡大について

- ・医療的ケアの児童生徒が保護者を伴わずに校外学習などに参加できるという方向性についてはよい。命に係ることであり、慎重に行っていく必要があるので、まずケースを出し指標を立ててモデル研究として探りながら進めていくとよい。

(3) 入院児童生徒等学習保障体制整備事業について

- ・入院等で長期に通学できない時の学習については、特別支援学校だけでなく、高等学校等の立場も踏まえて考える必要がある。
- ・現在は欠席を補完する方法がなく、入院期間が欠席扱いとなるといった、単位の修得に関する課題がある。入院しながら学習が保証される制度があれば、希望する学校に通うニーズをかなえられる。院内学級のような仕組みを利用できるのであれば、その際、入院先や、教員の配置をどのようにするのが課題となる。

(4) 通級指導担当教員の養成について

- ・通級指導教室や特別支援学級に関わる教員の、特別支援教育をテーマとする研修会への受講ニーズは高く、専門性を高めるといった点で非常に意味のあることである。コア・ティーチャーの指導方法の見学も指導内容として有効である。
- ・特別支援学級と通級指導教室の教員の両者を育成するために、研修の参加者を広く募集してほしい。